

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0991400029 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 蓬愛会 | | |
| 事業所名 | 城下庵 | | |
| 所在地 | 栃木県さくら市喜連川3609 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年11月26日 | 評価結果市町村受理日 | 平成23年2月2日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人栃木県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 栃木県宇都宮市若草1-10-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年12月9日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歴史ある城下町の中心に立地し街並の景観にもとけ込む建物である。利用者はもちろん地域の皆様にも違和感なく出入りできる環境整備に努めている。
同じ喜連川に同一法人の特別養護老人ホームや居宅介護支援事業所もあるため、多様なサービスの提供と共に、地域に根ざした福祉の発展に努めている。法人の理念でもある、今日の一・一日を楽しむ安らぎのある毎日とするを念頭に、笑顔が多く見られる環境作り、また、夜間入浴を始めとする家庭的な雰囲気づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市東部の城下町でもある温泉地に位置し、周囲にスーパーや商店街がある利便性に富んだ場所にある。建物は歴史ある町並みに調和するよう古民家風の造りとなっており、小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。ホームでは法人理念とホーム独自の理念に基づき、入居者が住み慣れた地域社会で家庭的な雰囲気の下、生きがいをもち、笑顔で過ごせるよう、本人の意思を尊重した支援に取り組んでいる。ホームでは家庭での生活習慣を大切にしており、夜間時の入浴等にも取り組んでいる。また、地域との身近な交流を大切にしており、地域とのつながりも深まりつつあるが、今後は更に近隣の小学校や保育園との交流にも取り組んでいきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 当事業所の理念として「生活にゆとりと楽しみ、生きがいがある」との理念を職員でつくり上げた。又、法人の理念として出合いを大切に、今日の一日を楽しく安らぎある毎日とする、を日々の申し送り確認で確認している。又、施設内研修にて理念についての理解を深め共有を図っている。 | 法人理念を基に、全職員でどのようなホームにして行きたいかを話し合い、利用者本位の生活支援をホーム独自の理念としてつくりあげている。職員は常に理念を意識しながら、入居者が日々穏やかに生きがいを持って暮らせる様に支援に取り組んでおり、ホームでは今後、理念の中に地域とのつながりや交流を明記することを検討している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事等に参加し日常的なつながりが持てるようにしている。自治会に加入し回覧板等のやり取りもある。又、日常的な散歩や買い物にて関係づくりを行っている。 | 地域の一員として自治会に加入しており、地域行事への参加や近隣住民との身近な関係作りに向けた交流に取り組んでいる。今後は、近隣の保育園や小学校の子ども達との交流や地域への認知症への理解促進に取り組んで行きたいと考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 行事や見学等をおし、どのような認知症の高齢者がいるのか、どんな対応が大切なのかをアピールし、運営推進会議においても近隣の方と共に認知症についての取組を図っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議においては、事業所の活動報告、行事、現状の話題や問題点などについて話し合いを行っている。そこでの意見等を事業運営に反映するようにしている。又、グループホームでの火災事故の件も踏まえ消防署、運営推進委員の方と共に避難訓練を実施した。 | 運営推進会議は入居者家族、自治会代表、民生委員、地域包括支援センター、市職員等の参加により開催している。会議ではホームからの利用状況等の報告の他、グループホームでの火災や高齢者の虐待問題、感染症等の話題を題材に意見交換を行い、出された意見や提案等はホームの運営や入居者支援に役立てている。 | 運営推進会議においては、参加者への問題提起や資料の提示方法の工夫に取り組んでいるが、開催頻度について検討していく事に期待したい。また、議題によって参加者の選定を行なう等、会議が更に充実したものとなるよう期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 介護保険に関することや、運営、利用者の件で発生した事由についてもその都度連絡をとり協議している。また、運営推進会議にも参加している。 | 市職員には運営推進会議時等にホームの現状や課題等を把握してもらっている他、制度や入居支援に関する相談を随時行っており、市とは密に連携が図られている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束排除に関するマニュアルを基に介護保険指定基準の規定、身体拘束による問題、弊害等施設内外の研修にて周知をはかっている。グループホームにおいてはどのようなことが起きやすいのか等の理解を深めるよう努めている。 | 身体拘束をしない支援は法人の方針でもあり、ホームでも身体拘束防止マニュアルを作成し、職員へ身体拘束に該当する行為の周知や共通理解に向けて取り組んでいる。玄関は職員の見守りやセンサーにより、施錠しない支援に取り組んでいる。 | |

城下庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止に関するマニュアルを作成し、マニュアルに基づいて、日頃の利用者の表情や仕草、全身状況の観察に気を配り疑わしい事については管理者へ報告することとしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する研修会に参加し、又、施設内研修にて知識の共有を図っている。また、パンフレットを掲示している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約をする前に事業所として出来ること、出来ないこと、また家族の考えや疑問点等十分理解した上で契約を行う。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議には家族の方にも参加して頂いて意見をもらっている。家族から出された意見は日々のミーティングで周知しサービスの向上に努めている。 | 家族の来所は多い状況にあり、入居者の状態等の報告時に家族からの意見も確認するようにしている。また、家族にも運営推進会議やサービス担当者会議等に参加してもらい意見や要望を確認しており、出された意見等は入居者の支援や運営に役立っている。 | 家族は職員の異動や離職に敏感であることから、職員の顔や名前を覚えてもらうためにも、ホーム内に顔写真入りの職員紹介の掲示や広報誌等により職員紹介のページを設ける等の取り組みに期待したい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎日行われているミーティングに管理者、介護支援専門員、看護職員、介護職員が参加し利用者のサービスに関する事、運営等の確認を行っている。また、施設内研修、個別の面接等を行い質の向上に努めている。 | 管理者は直接支援にあたっている職員からの意見や提案は重要と捉え、職員が意見や提案を表しやすいよう配慮すると共に職員から出された提案等はミーティング等で協議しながら運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 各種の研修会・勉強会等の参加を行っている。就業等に関する事由についてはその都度話し合いを行うようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 認知症実践者研修や各種研修等への参加を積極的に行う。また、事業計画において新人、新任、現任とレベルに合わせた研修を行いケアの向上を図っている。月1回事業所内の研修や事業所外の研修も取り入れる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 栃木県老人福祉施設協議会や県のグループホーム協会に加入している。さくら市内でのケアマネ連絡協議会への参加による情報交換を行っている。研修等で他事業所との交流や意見交換を行っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者の意向や要望については十分に話し合う時間をつくり利用につなげている。本人や家族の不安や悩みを受け止め本人の声に耳を傾けながら関係づくりに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人や家族の立場に立って、利用者の意向や要望を踏まえつつ家族の不安や求めている事を受け入れ安心できる生活の支援を行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者・家族の状態や要望を理解し施設での生活が適しているのかを見極め、他サービスの利用が適している場合には、包括や他事業所へ相談している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個性が発揮できる環境作りをし、本人のできる事に配慮しながら調理や畑作業、生活文化等を入居者から教えてもらう事も多くあり、日々の生活での役割を共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者・家族・施設との話し合いの中でこれまでの家族間の関係を踏まつつ、家族が対応する事を本人が望んでいる場合には家族に協力して頂くように依頼している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者の知人や友人の方が面会に来られた時には、別の場所を提供するなど、今までの付き合いを維持できるようにしている。 | 入居者の生活歴や交友関係、趣味趣向の把握に努めており、知人の来所や習い事への送迎、自宅や馴染みの場所への訪問等、家族からの協力も得ながら、できるかぎり馴染みの関係が継続出来るよう支援に取り組んでいる。 | |

城下庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が利用者の状況や様子を理解し、利用者が孤立しないよう席の配慮を行い、共に支え合える環境づくりが出来るよう努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後においても、相談や支援に応じる姿勢を示しながらその後の様子を確認するよう心掛けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人や家族からこれまでの生活歴や自宅での様子を聞き、言葉にづらい思いを日々の行動や表情から汲み取り、本人の視点に立っていつまでもその人らしい生活ができるよう支援している。 | 職員は入居者との馴染みの関係から言葉や表情、仕草等から思いや意向を把握している他、気付いた点等はフェイスシートに記入して情報の共有に努めている。意向の表出が困難な場合には家族からの情報等も参考にしながら、本人本位の希望に沿った支援に取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の面接には時間をかけ情報収集に努め入居後もこれまでの習慣が継続できるようケアプランに取り入れている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日のスケジュールについては細かく定めず、本人の希望等を受け入れるようにしている。その一つを受け入れることにより能力の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居前の面接には時間をかけ情報収集に努め、個人記録や申し送り等にて日々の変化に対応し、また家族の面会時にも意見を聞き入居者主体の暮らしを反映したケアプランを作成している。設定期間や新たな要望や状況の変化に応じ家族とも相談しながらケアプランの見直しをしている。 | 入居時の介護計画は本人の生活歴や身体状態等の把握に努め、本人及び家族からの要望を取り入れた短期の計画を作成し、入居後の状況を見極めながら職員の意見等も参考に修正を加えている。モニタリングは3ヶ月毎であり、定期的な見直しは半年毎に行なっており、状態に大きな変化が生じた場合には家族の意見も参考に随時見直しを行なっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や気づきを具体的に個別記録に記入し、より良いケアにむけて職員同士が情報を共有していく事で介護計画の見直しに活かしている。 | | |

城下庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者個人の希望や今まで続けてきた地域のサークル活動への支援等、可能な限り柔軟な対応が出来るように努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者の中には以前から継続している地域のサークル活動に参加されている方もいる。そのような活動が継続できるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前にかかりつけ医を確認している。必要に応じて家族に協力を得ながら適切な医療が得られるよう配慮している。緊急時については、家族とも相談し協力医療機関へ受診してもらうこともある。 | かかりつけ医の受診については、本人及び家族が希望する医療機関での受診を支援しており、受診の際の付添いは家族にお願いしている。入居者の状態や受診結果、服薬類の情報も家族と連携を密にして情報を共有している。現在のホーム協力医は遠方であることから、今後、近隣の医療機関に協力医の変更を検討している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員を配置し、利用者の健康状態の把握に努め、状態変化や異常に早期発見できるよう介護職員とも関係を密にとっている。状況により家族や主治医との連携を図りながら健康管理に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院者が出た時には、時期をみて面会に行き、状況の確認及びストレス軽減が図れるよう支援する。家族・医療機関と連携を図り、早期治癒・退院に向けて支援する。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 本人・家族の意向を確認し、本人にとってどうあったら良いかを段階ごとに家族・医師と連携をとり、対応方針の共有を図っていく。また、事業所が対応しうる最大の支援方法を職員全体で検討し家族や医療機関と連携を図りながらチームで支援する。 | 看取りの指針を作成しており、重度化した場合でも、本人及び家族の希望により、できるかぎりホームでの支援に努めているが、医療行為が増えてきた場合には、希望により同法人の特養や医療機関等に移る場合が多い状況にある。今までに、看取りの希望は無いが、今後要望があれば対応して行きたいと考えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変や事故に備えてマニュアルを作成し定期的に訓練を行い周知している。また、急変時の対応方法については、掲示し家族や見学者などにも説明している。 | | |

城下庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策にはマニュアルを作成し利用者一人ひとりの状態を踏まえて、具体的な避難対策を日頃から話し合い定期的に避難訓練を行なっている。 災害発生時には、地域の方々との協力体制も出来ており連絡網もある。 食料品や水等の備蓄も確保されている。 | 消防訓練は年3回、併設する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で夜間時等も想定しながら実施している。地域住民へは運営推進会議等で協力を呼掛けており、訓練への参加や緊急時の連絡網にも入ってもらう等、協力体制を築いてる。スプリンクラーは今年度中に設置予定である。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシー保護に関するマニュアル作成し、利用者やその家族のプライバシーの保護に努め記録等の個人情報においても事務所内に適切に保管されている。 | 職員は年長者である入居者には常に敬意と尊厳をもって接しており、支援する側・される側にならないよう支援態度や、言葉遣いには特に気をつけている。個人情報に記載された書類等は、事務室で適切に管理されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日々、生活の中で自己決定を重んじ、利用者の表情や言葉を深く観察し理解するよう努めています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日常の生活の中で1人ひとりがどのように過ごしたいのかを聞きだし、その時の希望にあった支援ができるよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 朝の起床時には、今日は何の洋服を着たいか選んで頂き、又美容室への送迎も希望に応じ行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備に携わって頂くことや、家で使用していた食器を使って頂くことで落ち着いた、より楽しい食事ができるように支援している。 | 献立は職員が交替で作成しており、法人の管理栄養士にカロリーや栄養バランスの助言をもらっている。入居者は職員と共に食事の準備や後片付けを行っており、食事は職員も入居者と同じ物を一緒に会話を楽しみながら食べている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事形態に応じた食事を提供しバランス良く摂取できるようにしている。既往歴や病状により水分、食事量を考慮している。 | | |

城下庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアへの声かけ、介助を行い口腔状況を観察し清潔保持に努めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録をもとに、排泄パターンを把握し個々にあった誘導、声かけ、介助を支援している。 | 各居室内にトイレがあり、他の入居者に気兼ねなく排泄ができるようになっている。排泄記録表により、排泄パターンやタイミングを把握し、さりげない声掛けや誘導によりトイレでの自立した排泄に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 適度な運動、散歩を取り入れ又、みそ汁の具を多くするなど野菜を多く取り入れ自然排泄を促すことに心がけている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 夜間入浴を中心に1人ひとりの生活習慣を重んじ個別対応をしている。 | 家庭での生活を基本に考え、お風呂は夜に入るものとの考えから、主に夕食後の19時～21時を入浴時間としている。入浴は1日おきとなっているが、希望があれば毎日の入浴もできるようになっている。また、併設する小規模多機能型側には浴槽が上下する浴槽もあり、入居者の状態により対応が可能となっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 1日の生活リズムを把握し日々の状況に応じて休憩して頂いたり夜間入浴により良眠されるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 飲み忘れや、誤薬生じないように個々独自の薬袋を用意し、服薬の管理、状態の変化に注意している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日常生活の中に趣味や得意なことなど披露できる機会を設け、張り合いのある日々を過ごせるようにしている。 | | |

城下庵

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 個別に地域の踊りの会等に所属し稽古がある時には準備、送迎等の支援をしている。また、本人の希望にそって外食や花見、散歩、ドライブ等を行っている。 | 近所の散歩や買い物、自宅周辺や馴染みの場所へのドライブや希望者を募り外食等に出かけている。また、外出が好きな入居者が多いことから、毎月、季節毎の外出を企画して、弁当持参のお花見や紅葉狩り等に出かける等、外出の支援に取り組んでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者の状況や希望に応じて家族の確認を取りながら買物等お金を使えるようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者の方が自ら連絡を取りたい場合にはいつでも連絡ができるように対応し、プライバシーにも配慮し居室でも電話が使える。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 落ち着いた空間で過ごして頂けるよう建物内の雰囲気、季節の花、照明、壁飾りなどに配慮している。建物全体が古民家風の木造作りで落ち着いた雰囲気である。 | 木材を多用した古民家風のつくり照明も温かみのあるものが用いられ、さりげない季節の飾付けにより落ち着いた空間がつけられている。温度や湿度、換気も適切に管理されており、清掃も行き届いた清潔な環境が提供されている。入居者がソファや小上がりの畳スペース等で思い思いに過ごす姿が見られた。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間においては椅子やテーブルの他にソファを置いたり、又、和室がありそれぞれ過ごせるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自室(個室)には自宅ですべて使っていたものを使って頂ける家族や本人にも説明している。 | 各居室は自分の家と捉え、入居前の環境と違和感がないように、本人及び家族には使い慣れた家具や馴染みの品々の持参を促しており、ベッドや筆筒等の家具類や、仏壇や家族の写真等が持込まれ、個性的で居心地の良さそうな居室づくりがなされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 身体機能にあわせ浴室、トイレなど多種多様な内容に対応できるよう心がけています。 | | |